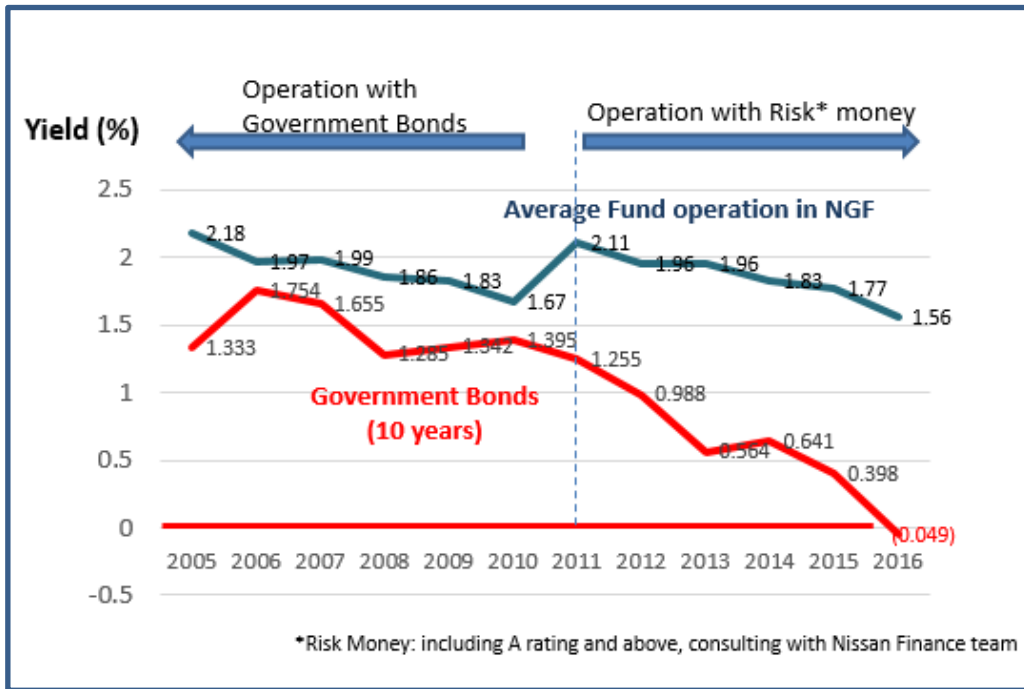


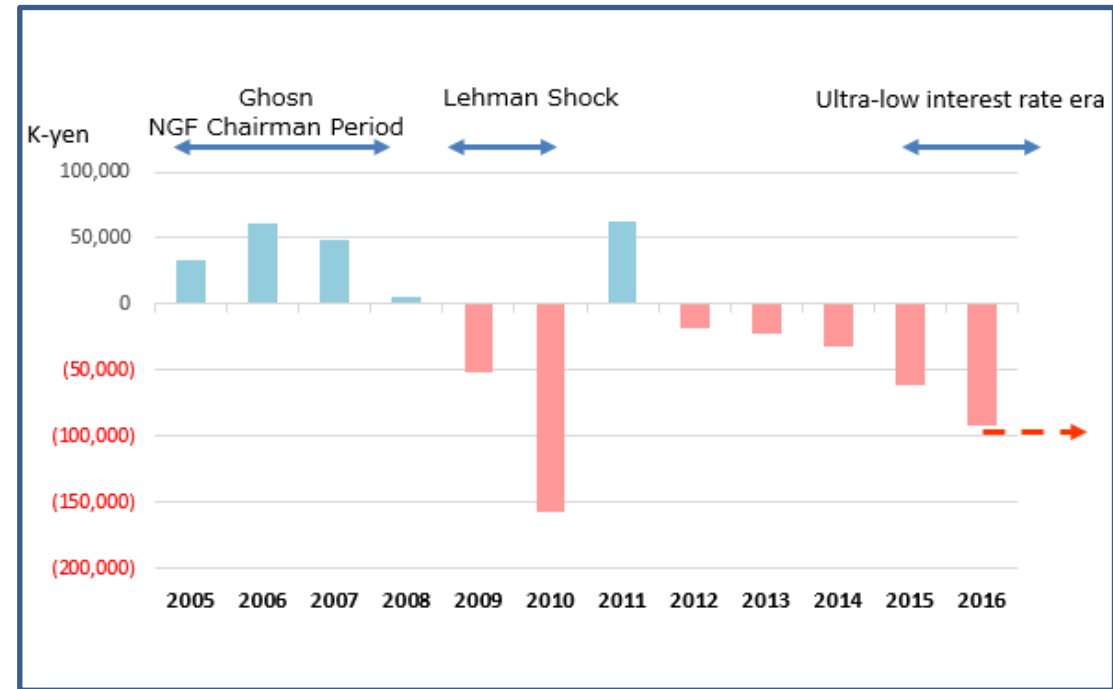
6月3日に今年度第一回理事会を開催しました。今回は、定例的な議案となる昨年度の事業と会計報告に加えて、コンプライアンスあるいは内部統制の視点から3つの議案と、マイナス金利政策下での資金運用(下左図)を取り上げ、予定時間を越えて熱心な論議が交わされました。

続いて6月20日には第一回評議員会を開催し、理事会論議結果を報告するとともに、現在の日産財団の厳しい財務状況(下右図)を説明しました。出席された評議員と監事からは、将来にわたってサステナブルな財団とするために、コア事業のあり方をしっかり検討するよう、強く求められました。この2日間を通じて、役員・評議員の皆さんの日産財団を支え育ててくださる熱い思いを実感しました。



《財団の資産運用状況》

2011年以降、従来の国債中心の運用から、社債や仕組み債等のリスクをとった運用へシフトしてきたが、マイナス金利下で利回り悪化が避けられない



《財団の経常収支》

2012年以降、日産自動車からの寄付金がSTOPし、利回りの悪化に伴い収支が悪化している。2016年は約1億の赤字が見込まれ、事業構造の見直しが必要となっている